

吸汗速乾ウェアの“真実”に向き合う 「ベースリカバー」誕生

「遊び手＝創り手」の国産アウトドアスポーツメーカー、株式会社finetrack(代表取締役:金山洋太郎)は、吸汗速乾ウェアの使用によって低下した吸汗性を復活させる吸汗加工剤「ベースリカバー」を新発売。

全国のアウトドアスポーツ専門店とメーカーサイト(<https://www.finetrack.com>)、finetrack TOKYO BASEにて販売いたします。

撥水性をケアするように、 吸汗性もケアしよう。



■ 永遠には続かない吸汗性

瞬時に汗を吸い取って拡散させる吸汗速乾ウェア。アウトドアでの快適性を向上させる重要なアイテムの一つですが、この吸汗性能について、多くの人は「永遠に続く」と思っているのではないのでしょうか。

ベースレイヤーやミッドレイヤーなどの吸汗性は実は使用によって低下していきます。ファイントラックでは耐久性の高い吸汗加工を施した繊維を採用しておりますが、それでも吸汗加工は繰り返しの着用や洗濯で脱落していき、機能が低下してしまいます。つまり、多くの吸汗速乾ウェアにおいて、吸汗性能は「永遠」ではないのです。

■ なぜ吸汗剤が必要なのか

ベースレイヤーやミッドレイヤーが吸汗拡散しなくなると、ドライレイヤー[®]から透過した汗が移動せず、肌側に残留してしまったり、アウターシェルの透湿性を活かせなくなり、レイヤリングでも弊害が生じ、身体を冷やしてしまう「リスク」につながります。このように、ベースレイヤーとミッドレイヤーの吸汗拡散性は、アウトドアアクティビティをする上でなくてはならないもの。したがって、撥水性をケアするのと同じように、吸汗性のケアも重要なのです。

しかし、どうやって? と多くの方が思われるはず。吸汗性が落ちること自体あまり知られていないのだから、当然ケアの方法を知る人はさらに少ないのが現状…。そういった吸汗速乾ウェアの状況を打開するためにも、吸汗性が落ちるものだという事実をみなさ

んにお知らせする必要があり、さらにそれを家庭で簡単にケアする為の吸汗剤の開発も急がれました。

■ L2・L3に使用できる成分の選定

吸汗速乾ウェアには、さまざまな繊維が使われています。ファイントラックの吸汗速乾ウェアにも、ポリエステル、ナイロン、ラミー(苧麻)、メリノウール、シルク、綿といった素材を採用しています。だからポリエステルだけにしか効果がない吸汗加工剤では意味がなく、あらゆる繊維に対して効果がないといけません。ファイントラックのL2・L3の吸汗速乾ウェアに使用できるベストな吸汗加工成分にするために、いくつもの選定・配合と実験を繰り返し、ようやく辿りついたのが今春新発売の「ベースリカバー」。洗濯耐久性にもこだわり、5回以上の洗濯に耐える*吸汗剤が誕生しました。

MADE IN JAPAN

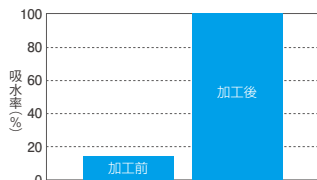
吸汗性を復活させ、効果長持ち

化学繊維・天然繊維問わず吸汗速乾ウェア全般で吸汗性を復活させる「吸汗加工成分」を選定し、独自処方。1回の仕上げで、繰り返しの洗濯にも耐えるベストな配合にしています。

*洗濯耐久性の目安：5洗以上。ただし、生地表面の状態、生地の厚み、洗濯状況などにより変化します。

【吸水率試験】(当社試験データ)

3年以上、ハードに着用して吸汗性が低下したメリノウール・シルクを用いて試験を行った。精密天秤の上で約0.3gの水を垂らし、上から試験布を被せて指で軽く15秒押さえたのち、試験布を取り除き、水の残量から吸水率を算出する。加工前は14.4%の吸水率であったが、加工後は吸水率が100%に向上しており、ベースリカバーで加工することで、良好な吸水効果が発揮できている。



BASE RECOVER

ベースリカバー

#FCG0201 本体価格 ¥1,500 +税
内容量:320g



(左) 使用に伴い吸汗加工が落ち、生地表面で水を弾いてしまうようになったベースレイヤー。

(右) ベースリカバーを用いて吸汗性が復活

浸して、 乾かすだけの 簡単2ステップ

ステップ1

水で薄めたベースリカバーに、吸汗性が低下したウェアを1時間浸けます。



ステップ2

軽くしぼった後に、ウェアの取扱表示に従って、しっかり乾燥させベースリカバーを繊維に固着させます。

